

能登町産業等基礎調査報告書

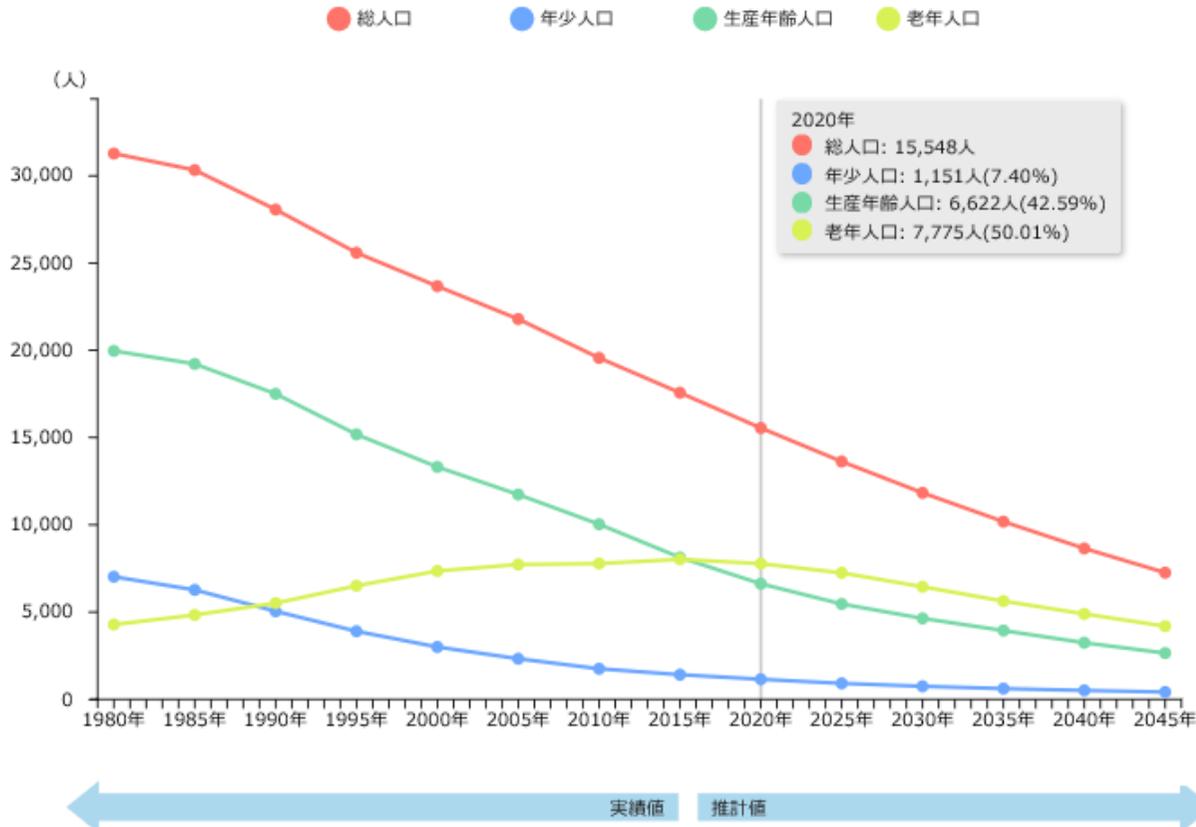
この調査報告書は、農林水産省「わがマチ・わがムラ」及び経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）」の統計データを利用して、能登町の産業等の状況についてわかりやすくまとめたものです。

令和3年12月28日

能登町商工会

人口推移

石川県能登町



2020年の能登町の人口は15,548人。
能登町の総人口は1980年の31,277人をピークとして日々変動しており、年少人口は1980年の7,025人を生産年齢人口は1980年の19,967人、老年人口は2015年の8,002人をピークにそれぞれ特徴的な変動を続けている。

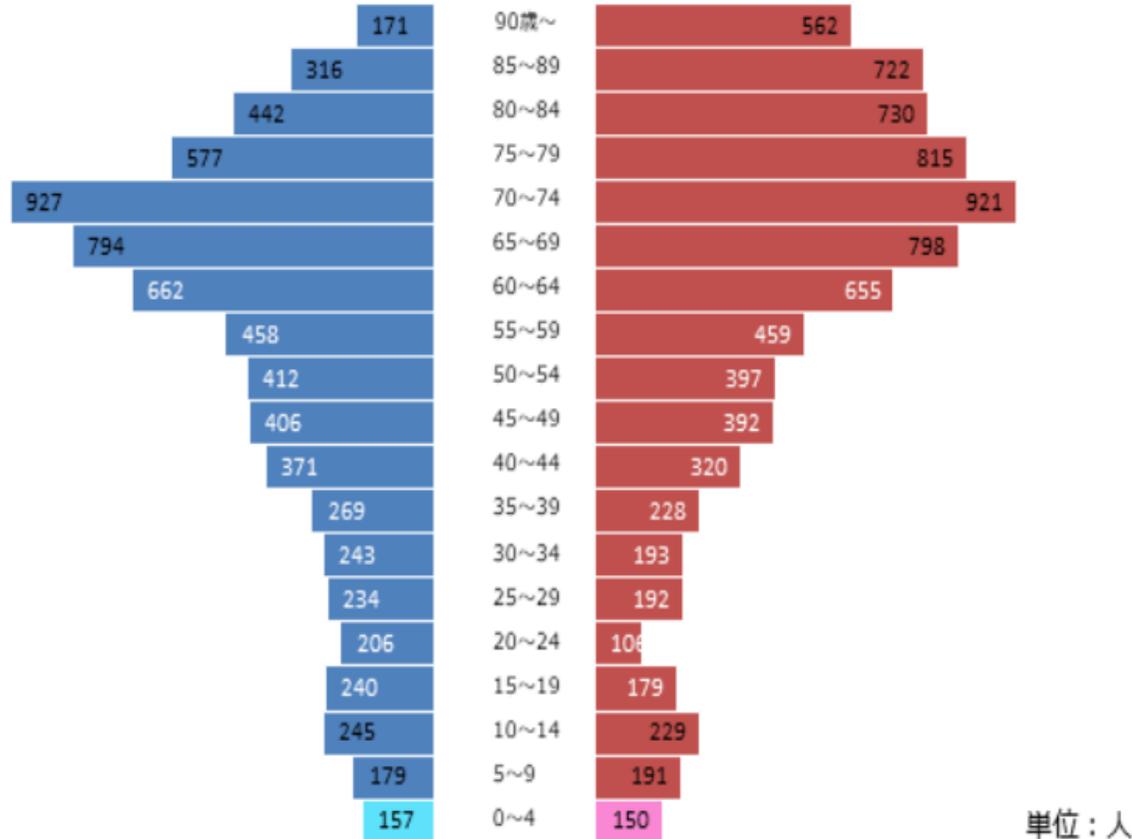
2020年の石川県能登町の年少人口は7.4%で全国平均の12.31%以下である。
生産年齢人口は42.59%で全国平均の57.77%以下で大きく全国平均を下回っており、老年人口は50.01%で全国平均の29.92%を大きく上回っている。

生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人
年少人口：15歳未満の人口
老年人口：65歳以上の人口

2020年 人口ピラミッド（能登町）

男性計：7,309人

女性計：8,239人



人口の2.0人に1人が65歳以上、3.6人に1人が75歳以上で、高齢者と生産年齢人口の比率は、1対0.9となっている。すでに人口にしめる65歳以上の高齢者の割合は、税収入の低下や高齢者の医療・福祉の負担増から財政維持が難しいとされ、限界自治体の目安ともなっている50%を上回っている。

出産や子育ての中心となる若い女性に着目すると、20歳～39歳の人口は約720人で、総人口に占める割合は4.6%。5年前の同世代の女性数に比べると21.2%の減少となる。

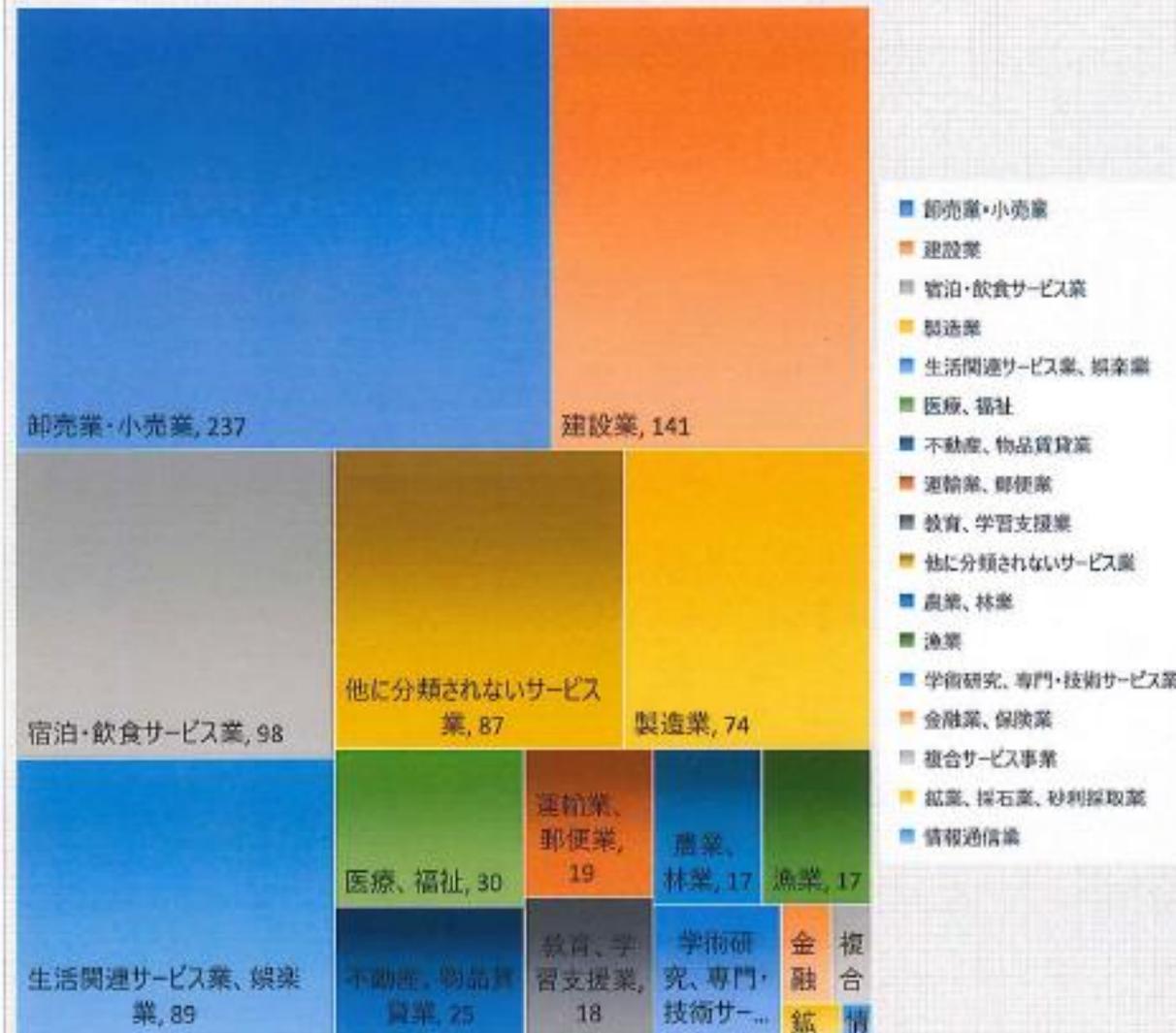
（RESAS 推計値より）

生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人

年少人口：15歳未満の人口

老年人口：65歳以上の人口

産業構造【企業数】2016年 単位：社



2016年企業数(企業単位)：881社。

当町の産業の現状は町内企業数で見ると

第1次産業企業数が34社/3.8%

第2次産業企業数が454社/51.3%

第3次産業企業数が393社/44.9%

である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業、

- ・総合工事業 73社(51.8%)
- ・職別工事業(設備工事業を除く) 43社(30.5%)
- ・設備工事業 25社(17.7%)

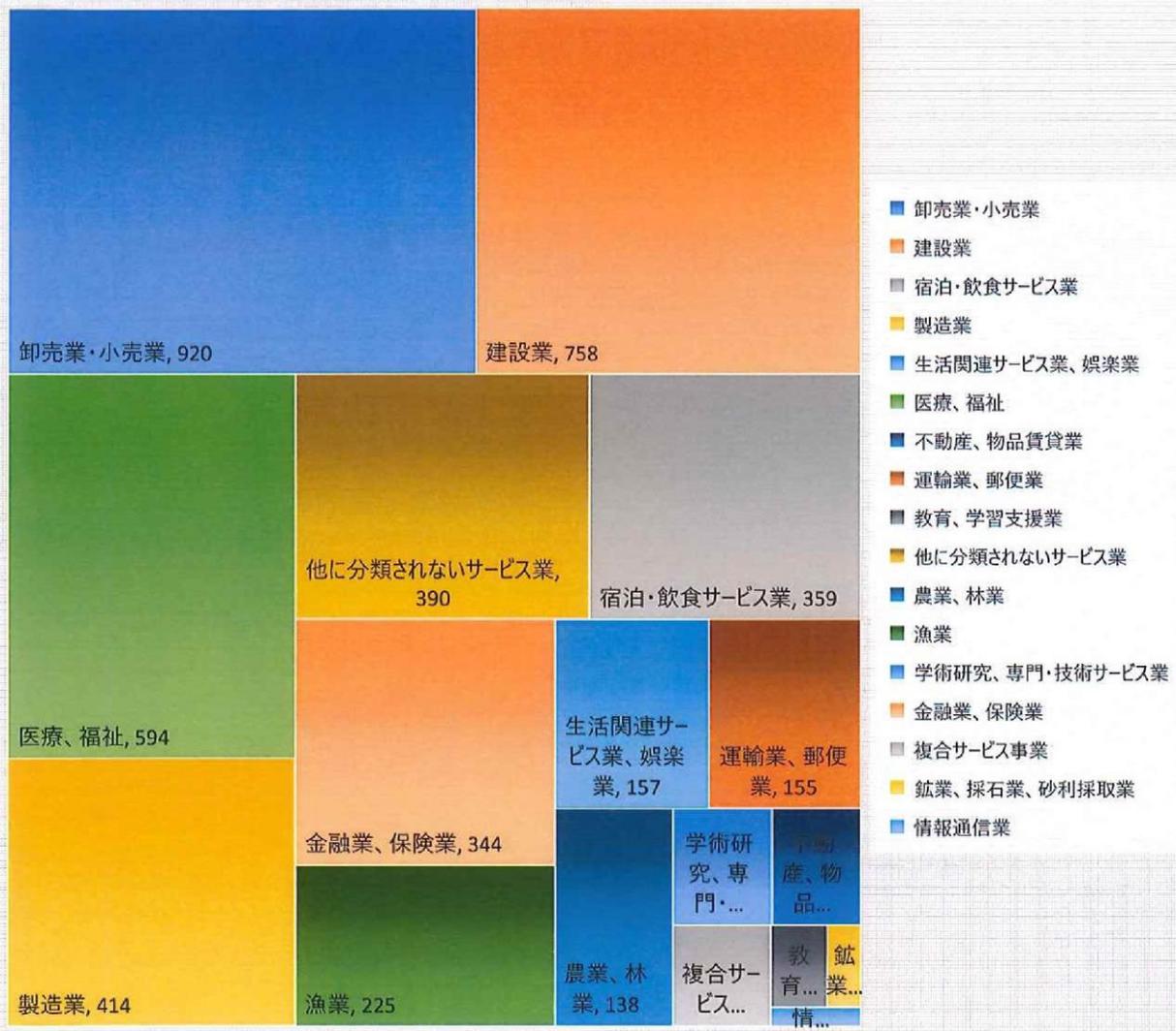
製造業

- ・食料品製造業 28社(37.8%)
- ・飲料・たばこ・飼料製造業 5社(6.8%)
- ・金属製品製造業 5社(6.8%)
- ・窯業・土石製品製造業 5社(6.8%)

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業 84社(35.4%)
- ・機械器具小売業 33社(13.9%)
- ・織物・衣服・身の回り品小売業 18社(7.6%)

産業構造【従業員数】2016年 単位：人



2016年従業員数数：4,674人

当町の産業の現状は、従業員数で見ると、

第1次産業従業員数が363人 / 7.8%

第2次産業従業員数が2,107人/45.1%

第3次産業従業員数が2,204人/47.1%

である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業

- ・総合工事業 407人(53.7%)
- ・職別工事業(設備工事業を除く) 225人(29.7%)
- ・設備工事業 126人(16.6%)

製造業

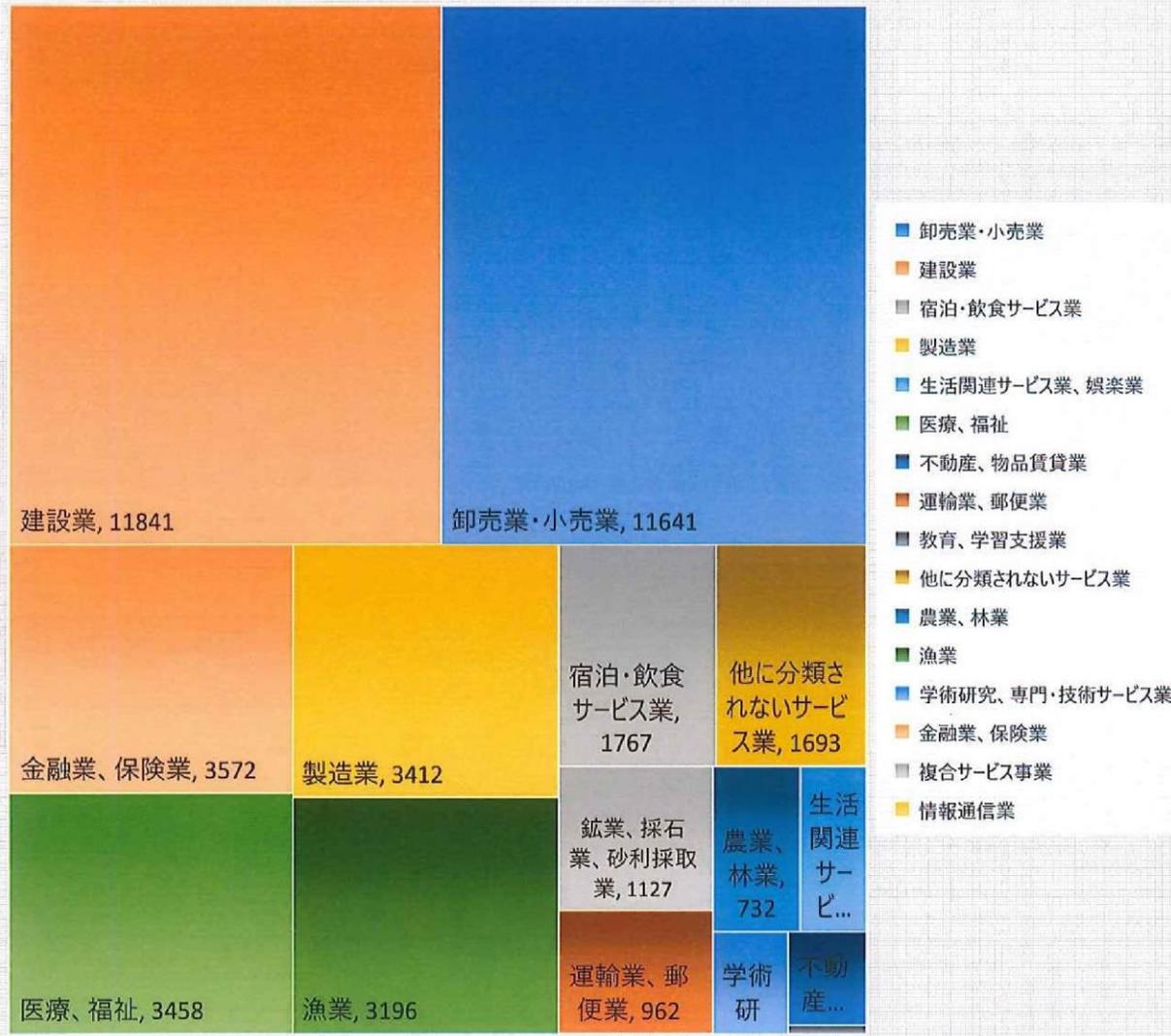
- ・食料品製造業 193人(46.6%)
- ・繊維工業 91人(22.0%)
- ・飲料・たばこ・飼料製造業 29(7.0%)

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業 329人(35.8%)
- ・機械器具小売業 149人(16.2%)
- ・建築材料、鉱物。金属材料等卸売業 30人(3.3%)

他

産業構造【売上高】 2016年 単位：百万円



2016年売上高(企業単位)：45,108百万円
 当町の産業の現状は、売上高で見ると、
 第1次産業売上高が3,928百万円/8.7%
 第2次産業売上高が26,894百万円/60.1%
 第3次産業売上高が14,286百万円/31.2%
 である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業

- ・総合工事業 6,423百万円(54.2%)
- ・職別工事業(設備工事業を除く) 3,793百万円(32.0%)
- ・設備工事業 1,624.0百万円(13.7%)

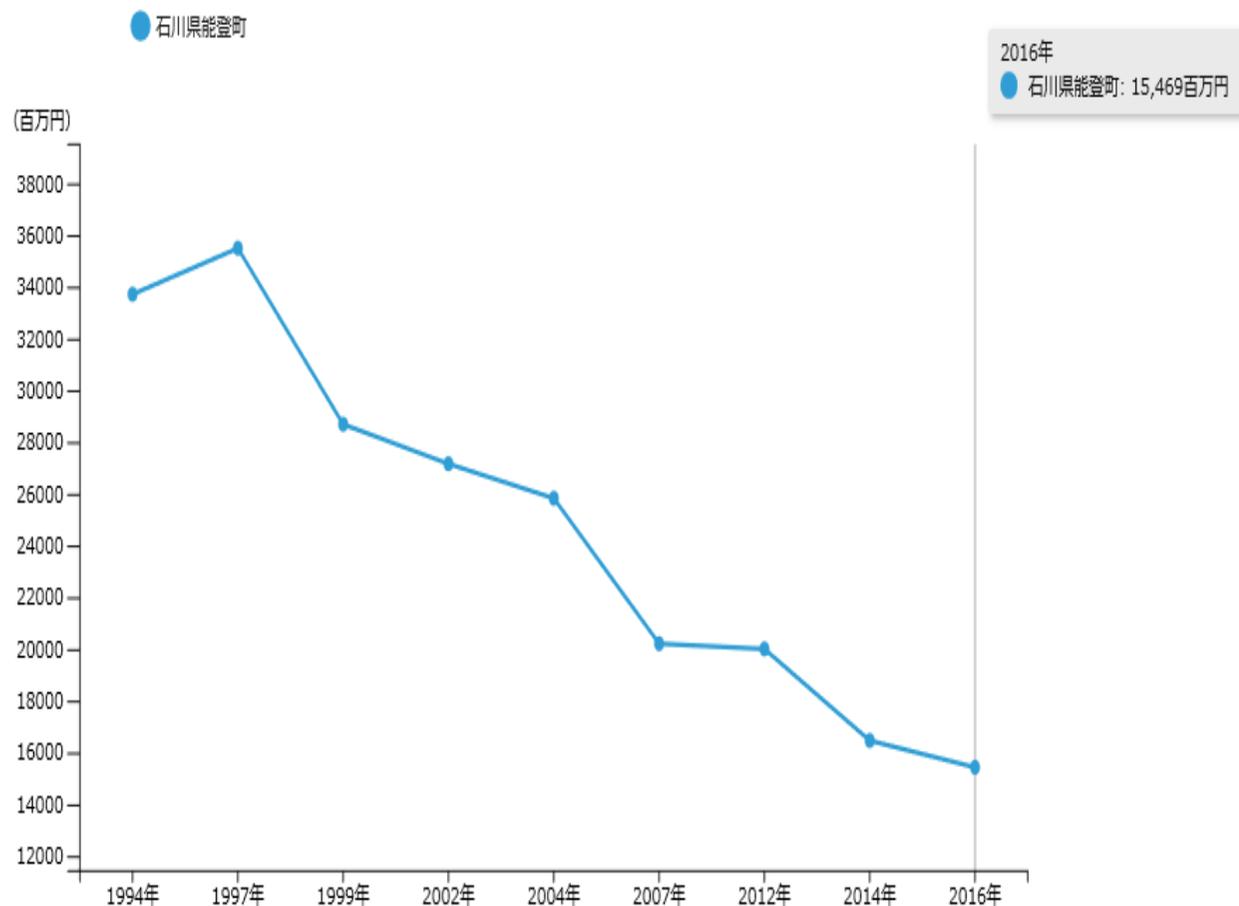
製造業

- ・食料品製造業 1,861.0百万円(57.2%)
- ・飲料・たばこ・飼料製造業 341.0百万円(10.5%)
- ・繊維工業 298.0百万円(9.2%)

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業 3,423百万円(30.1%)
- ・飲食料品卸売業 1,628百万円(14.3%)
- ・機械器具小売業 1,931百万円(17.0%)

小売業・卸売業年間商品販売額



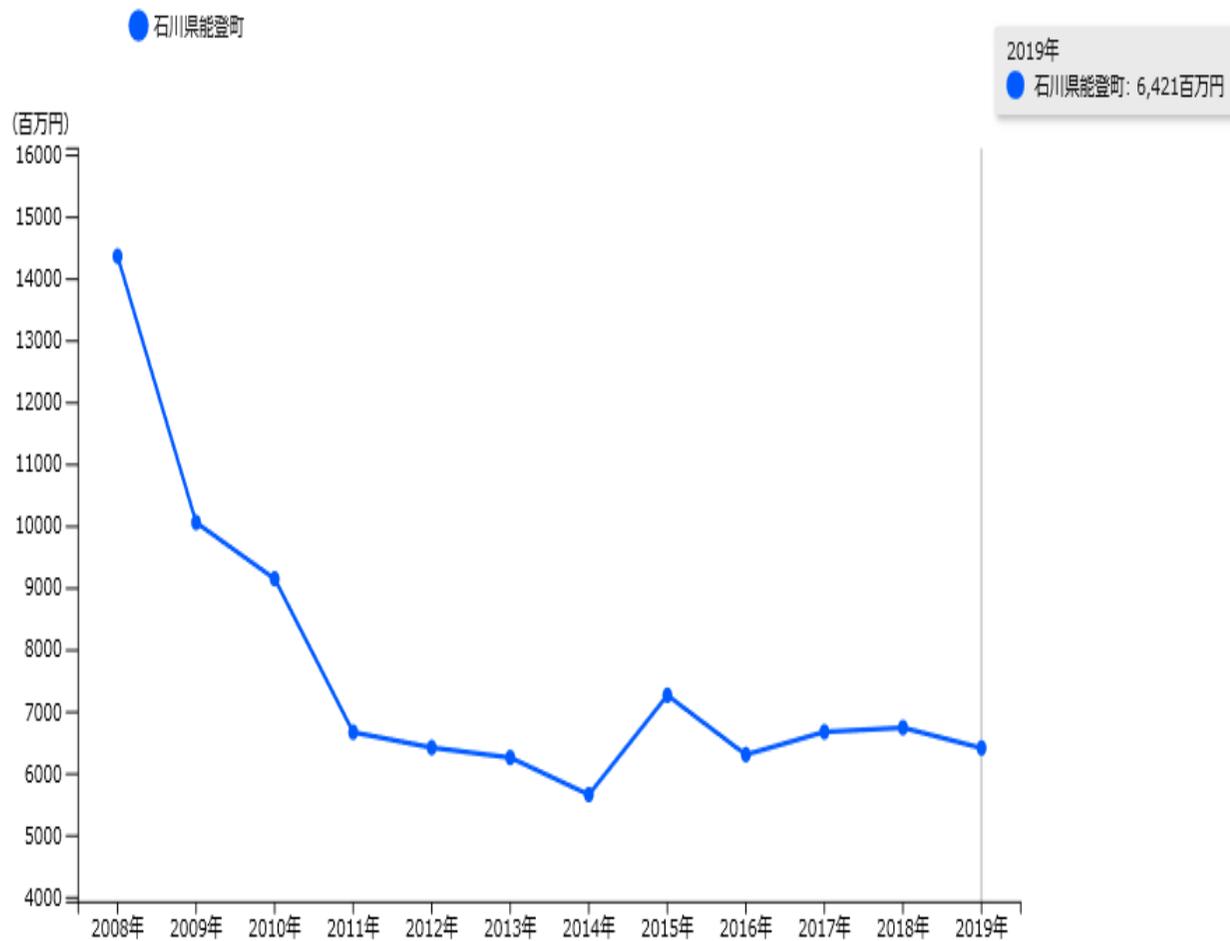
2016年の小売業・卸売業の年間販売額は15,469百万円(内訳:小売業商品販売額は13,002百万円、卸売業商品販売額は2,467百万円)であった。

1事業所当たりの年間商品販売額は58百万円であった。

小売業・卸売業事業所数は265事業所(内訳:小売業事業所数241、卸売事業所数24)であった。

2014年の数値と比較すると、商品販売額は1,035百万円(6.3%)減少、事業所数は10事業所(3.6%)減少となっている。

製造業製造品出荷額等



2019年の製造業製造品出荷額は前年比4.9%減の6,421百万円だった。

事業所数は31で1事業所あたりの出荷額は207百万円だった。

事業所数内訳は以下のとおり

食品製造業 12

窯業・土石製品製造業 5

繊維工業 4

金属製品製造業 3

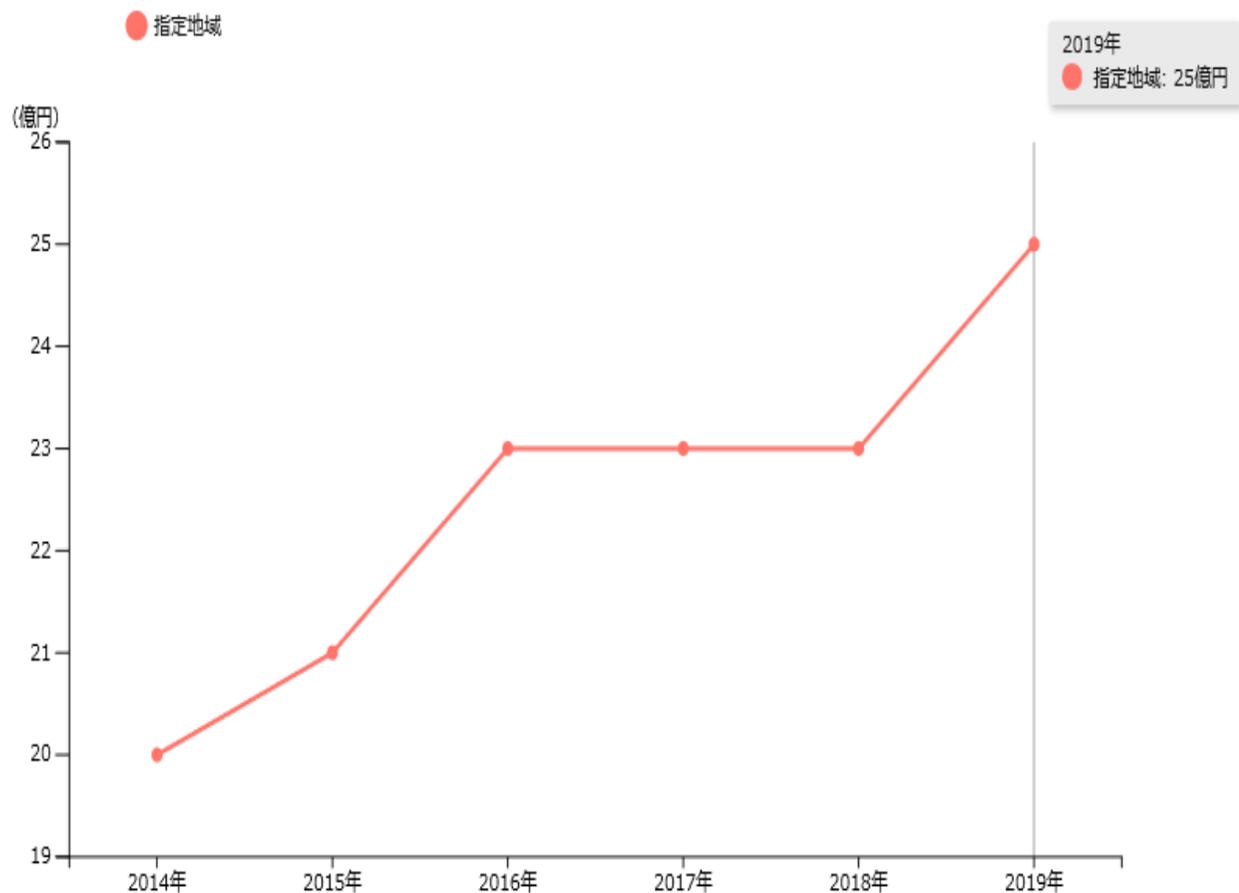
飲料・たばこ・飼料製造業 3

その他の製造業 4

農業産出額（総額）

石川県能登町

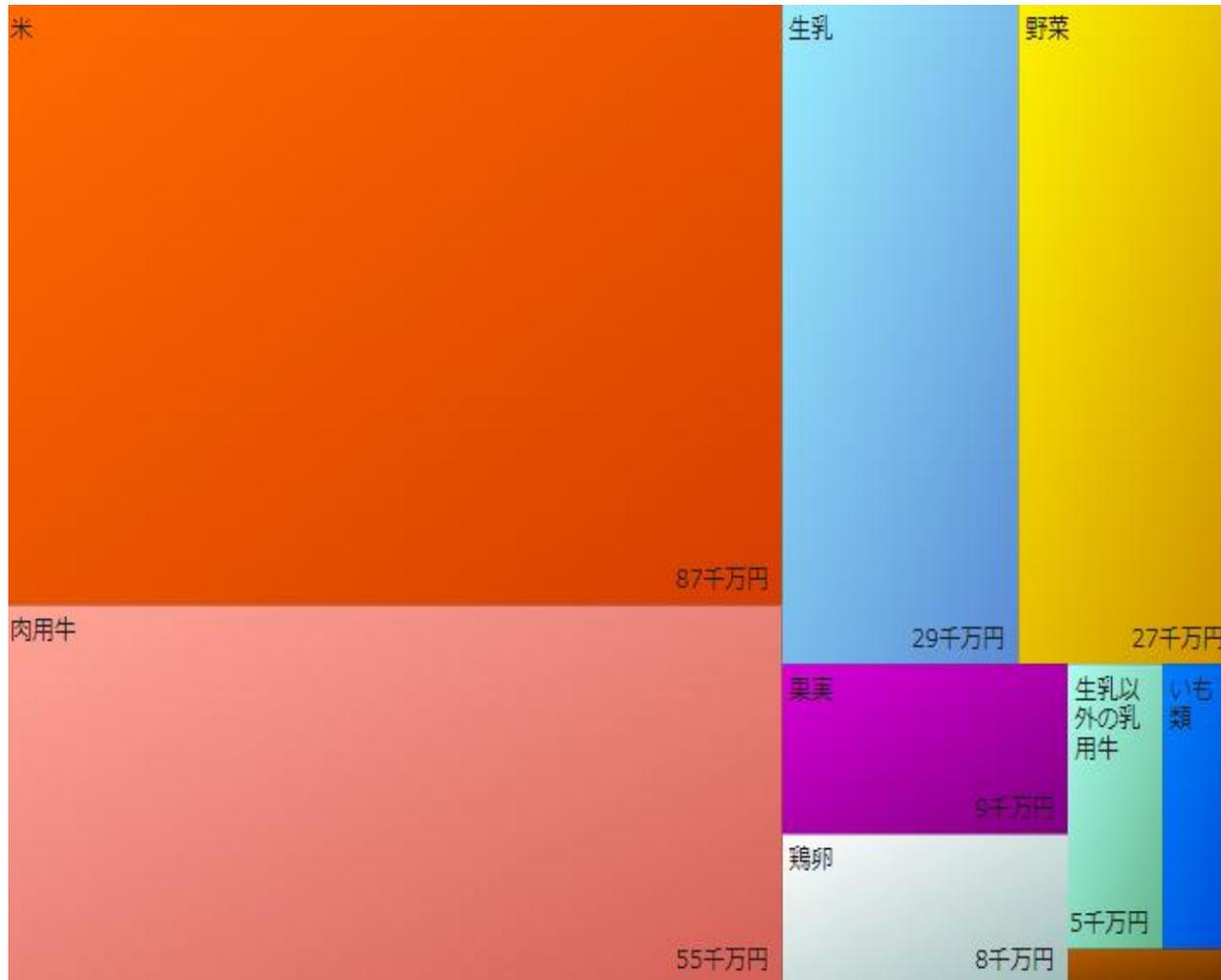
すべての農業部門



当町の農業産出額は 2019 年で 25 億円となり、2018 年に比べて 2 億円増、約 8%アップとなっており増加傾向にあるといえる。

能登牛や米、能登野菜等の生産振興や消費の拡大、ブランドカの向上が 農業産出額増加の要因ではないかと思われる。

品目別農業産出額（2019年）



2019年の農業産出額を品目別にみると、増加している主な品目は米、肉用牛、生乳、いも類である。

米は2019年に87千万円となり、2016年に比べて5千万円増加した。

肉用牛は2019年に55千万円となり、2016年に比べて16千万円増加した。

生乳は2019年に29千万円となり、2016年に比べて4千万円増加した。

いも類は2019年に4千万円となり、2016年に比べて1千万円増加した。

野菜、果実、その他の作物等は2016年に比べて減少した。

農業産出額 畜産計 2019年 118 千万円

肉用牛は2016年には39千万円、2019年には55千万円と順調に増加しているといえる。

1995年(平成7年)に「能登牛」の認定が始まり国・県の支援が進んでおりその効果が出ていることも増加傾向に関係していると思われる。

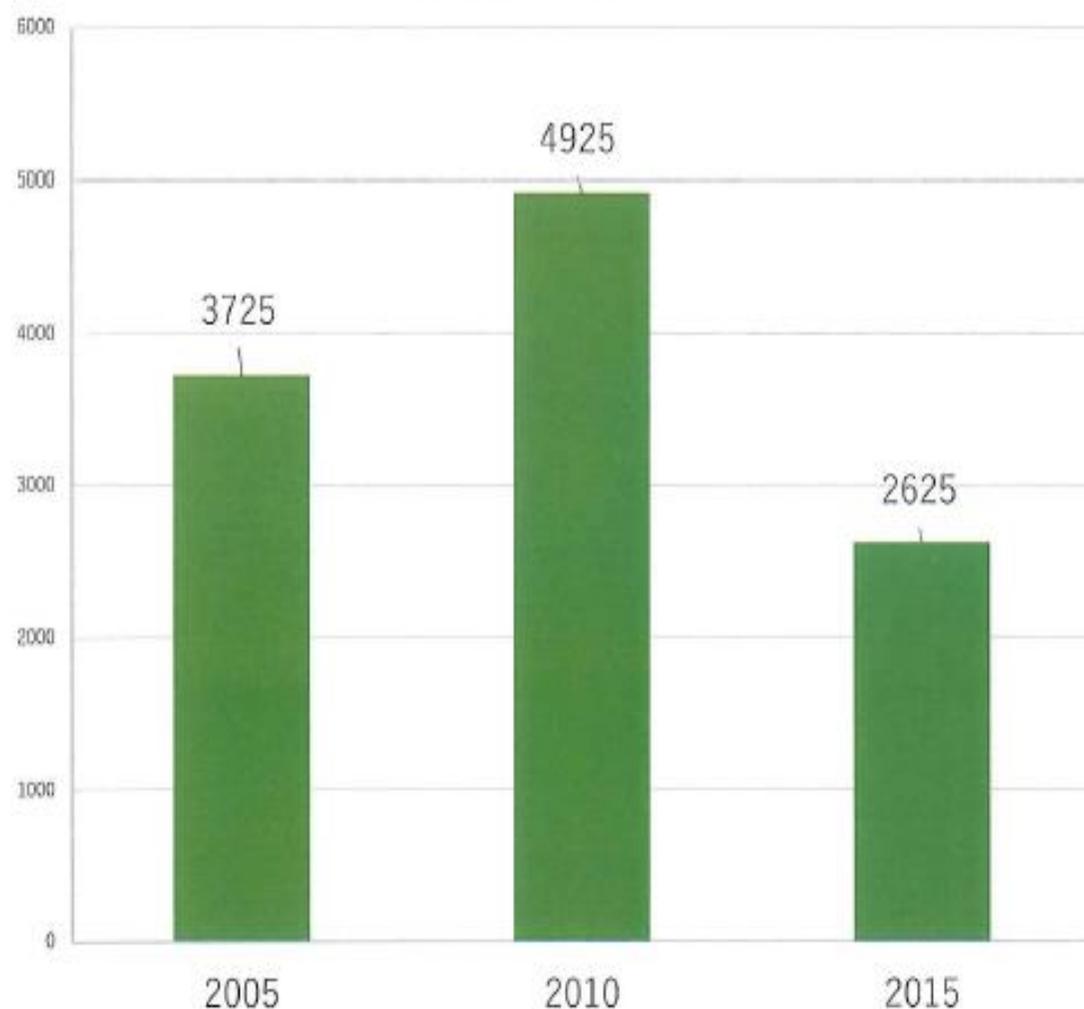
乳用牛も2016年には25千万円、2019年には34千万円と増加傾向にある。

肉用牛	55 千万円
乳用牛	34 千万円
(乳用牛うち生乳 29 千万円)	(29) 千万円
豚	X 千万円
鶏	8 千万円
(鶏うち鶏卵)	8 千万円
(鶏うちブロイラー)	(-) 千万円
その他畜産物	X 千万円
加工農産物	0 千万円

—/皆無又は定義上該当数字がないもの

X/数値を公表しないもの

林業総収入 単位：万円

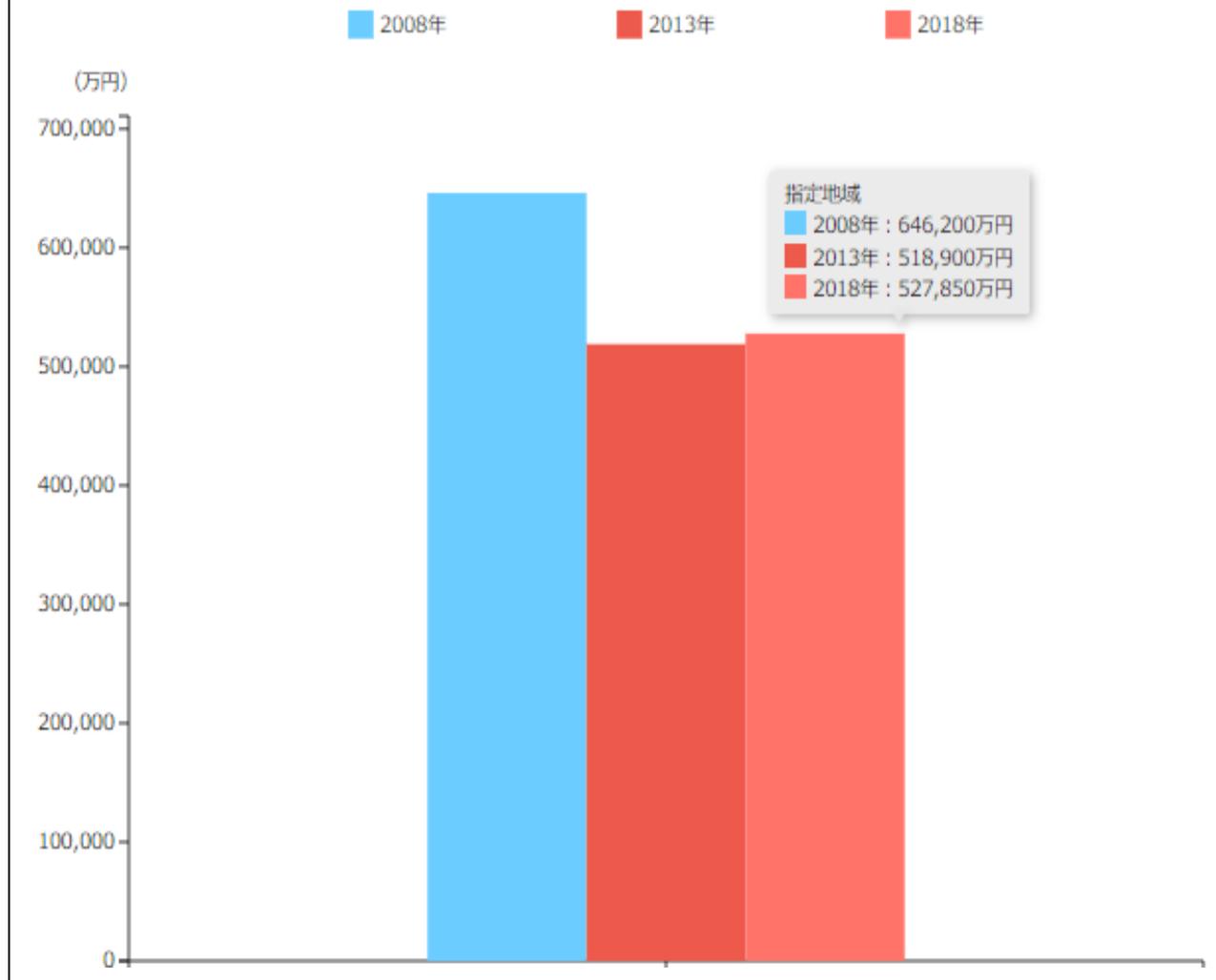


2015年の当町の森林面積は20,345haで石川県森林面積の7.3%である。林業総収入（林業総収入＝林産物販売金額＋林業作業請負収入）は2015年で2625万円となっている。経営体当たりの林産物販売物金額は減少傾向、経営体当たりの林業作業請負収入は増加傾向にある。

林業作業請負収入とは、林作業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。

町内ではきのこ類・木竹炭等の生産が行われている。このうちシイタケについては、超大型の原木生シイタケ「のと115」のブランド化(のとてまり)を推進するため生産者、JA、県・市町等による協議会を設立し、生産と販売が一体となった取り組みが行われている。

漁業 海面漁獲物等販売金額



能登町の海面漁獲物販売金額は 2018 年で 527,850 万円となっており、2008 年の 646,200 百万円と比べて金額で 118,350 万円・約 18.3%の減少となっている。

定置網で漁獲される、いわし類、あじ類、さば類等は全般的に資源減少にともない水揚量は減少傾向にある。

また、本州日本海最大の冷凍スルメイカの水揚港である小木港で水揚げされる生鮮スルメイカの水揚量についても 1990 年代中頃以降、減少傾向にある。さらに近年は北朝鮮の違法イカ漁による影響も大きいと見られる。

ブリは 1990 年代以降の海洋の温暖化にともない、水揚量は増加し（2018 - 2019）はここ数年でトップクラスの水揚げで豊漁となっていた。

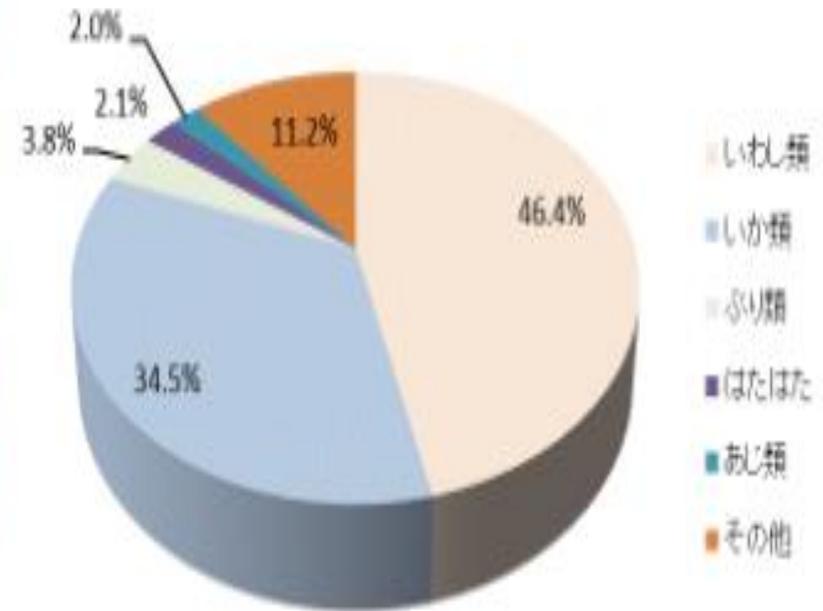
魚種別漁獲高 (2018年)

■ 海面漁業の魚種別漁獲量(うち上位10種)

合計	11,880 t
1 いわし類	5,507 t
2 いか類	4,100 t
3 ぶり類	453 t
4 はたはた	250 t
5 あじ類	238 t
6 さば類	120 t
7 にぎす類	110 t
8 ひらめ・かれい類	98 t
9 かに類	93 t
10 さわら類	76 t

注:漁獲量はH30年値。

海面漁業の魚種別漁獲量の内訳



2018年の当町の漁獲高は11,880トンであり魚種別の漁獲高で見ていくと、いわし類で5,507トンと最も高く、次いでいか類4,100トン、ぶり類453トン、はたはた250トン、あじ類238トンの順になっている。いわし類といか類の2魚種で全体の80%超を占める。